体育振興・健康づくり対策特別委員会資料
平成26年（2014年）4月17日
総合政策部国体準備室

第４回主会場選定専門委員会の審議結果について

標記専門委員会の第４回会議が平成26年３月25日に開催され、その結果は以下のとおりでした。

１．日　　時　　平成26年３月25日（火）　13:30～16:00

２．場　　所　　滋賀県大津合同庁舎　７－Ａ会議室

３．出席委員　　大西 美和、北沢 繁和、西條 智晴、坂 一郎、辻井 弘子、中井 敏勝、平林 光彦、松田 保、山﨑 薫、横山 勝彦（委員長）、吉田 政幸
（50音順、敬称略）

４．議事概要

（１）審議事項

① 各候補地の評価について

これまでに整理した「比較評価調書」に基づき、委員毎に「評価票」に整理し、総合評価したうえで、それを基に議論を行い、各候補地の評価について、５．各候補地の主な評価のとおり「利点」と「課題」として整理された。

また、課題のうち、候補地の比較評価の判断に当たり、地元関係市の意向等を確認する必要があるとされた次の事項については、事務局において確認を行ったうえで、第５回委員会で再度議論を行い、委員会としての方針をまとめることとされた。

《彦根総合運動場》

敷地拡張を伴う施設の再整備を行うことに対する周辺住民の合意形成に向けた取組状況や見通しについて

《希望が丘文化公園》

名神高速道路・菩提寺ＰＡを活用したスマートインターチェンジ整備に向けた検討状況について

② 主会場選定比較報告書（素案）について

これまで委員会に提示してきた資料をまとめたうえで、次回、評価や結論部分を加えた報告書（案）の審議を行うことを了承。

５．各候補地の主な評価（概要）

裏面のとおり

第４回主会場選定専門委員会における各候補地の主な評価（概要）

◆彦根総合運動場

【利点】

- 現在の県立総合運動施設としての位置づけの延長線上に機能強化を図れる。
- 鉄道駅から徒歩でアクセス可能である。新幹線の駅からのアクセスや、高速道路からのアクセスも良好である。
- 市街地にあることから住民の日常的利用が期待でき、また周辺の観光施設・商業施設の活性化等の相乗効果が期待できる。
- 琵琶湖や彦根城などの観光資源に近く、湖国滋賀をアピールしやすい。

【課題】

- 彦根城をはじめとする周辺景観への配慮が必要となり、施設の規模等に一定の制約がかかる可能性がある。
- 現在の運動場敷地だけでは狭く、存置する建築物があり配置の自由度が少ないため、整備やその後の活用を考慮すると、周辺用地の確保（買収）が必須となる。
- 県立総合運動公園としての機能を維持するためには、代替機能も含めまとまった土地を隣接して確保することが望ましい。
- 住宅地に近いため、騒音、照明等での配慮が必要となる。
- 都市公園としての整備や、整備にあたり必要となる用地確保、周辺環境への配慮にあたり、周辺住民や彦根市の協力が必要となる。

◆希望が丘文化公園

【利点】

- 事業費が最も少ないこと、都市計画法上の制約がなく公園整備に当たり新たな用地確保の必要がないこと等から、整備の確実性が高く、スケジュール上の課題が少ない。
- 敷地面積に余裕があること、大規模イベントの開催等の実績もあること等から、多目的な施設利用の可能性がある。
- 合宿地としての利用など、総合施設としての活用の可能性がある。

【課題】

- 公共交通機関によるアクセスについて、他と比べ弱い。
- 高速道路からのアクセスに難がある。公園内通路の整備は、公園の利用形態を考慮すると、通過交通の発生を伴うため安全面での不安が残る。スマートインターの整備等によるアクセス改善が望ましい。
- 市街地からのアクセスが悪く、周辺の観光資源や商業施設等の集積がなく地域活性化につなげることが比較的難しい。
- 自然公園としての位置づけが定着しており、その良さは今後も活かすべきであり、デザインや配置、規模などへの配慮が必要。また、施設の整備に当たり、これまでのコンセプトの変更に関しては、十分な議論に加え、利用者等の理解も必要。
- 国体競技について、２市１町での運営となった場合、相互の調整が必要となる。

◆びわこ文化公園都市

【利点】

- 滋賀の人口集積地に最も近く、また名神・新名神高速道路の結節点に近いなど、新たな施設の立地を考えるうえで発展性のある場所である。
- びわこ文化公園都市を構成する文化・福祉施設等の資源との相乗効果が期待できる。
- 大学（滋賀医科大学・龍谷大学・立命館大学）との連携による「スポーツ」「健康」の拠点施設として将来にわたり活用できる可能性がある。

【課題】

- 敷地の拡張性に乏しく、公園内に多くの機能を盛り込むことは困難である。
- 市街地からのアクセスに課題が残る。
- 大規模な開発・造成となり、適正工期の確保、適正工法の検討を慎重に行う必要がある。また必須となる保安林解除や環境アセスメントの実施等を通じ、環境保全のための必要な対策の選定、実施が必要となる。
- 広大な残置森林を確保するため、民有地の買収が必要となる。
- 「びわこ文化公園都市」全体の整備計画と整合した公園整備計画を地元住民の理解のうえ遅滞なく策定する必要がある。
- スケジュールに余裕がなく、不測の事態が発生した場合、整備が間に合わない可能性がある。
- ランニングコストの純増も含め、事業費については最も高くなる。

◆その他事項（附帯意見）

【防災機能】

- 国体主会場として交通アクセス等が整備されることにより、いずれの候補地においても防災拠点としての機能増強は期待できる。
- 主会場スタンド下を備蓄倉庫として活用することは、日常の管理、搬入・搬出に必要な機材や人材の確保、食品保管の適・不適について、民間倉庫を活用する場合とも比較し、その必要性・実効性を含め検証が必要である。

【多様な主体による多目的利用】

- スタジアムを拠点とした街づくりをするといった理念を掲げることが必要である。
- いずれの候補地においても、現状では「観戦型スタジアム」としての利用は困難であり、将来のＪリーグ規格対応の可能性に配慮しつつ、国体に向けて最低限の施設整備に留め、仮設等による対応も検討すべき。

【その他】

- 国体終了後の全県的なスポーツ振興の観点から、体育施設の配置バランスは重要であり、主会場選定後、他の施設のあり方を考えるときには十分な配慮が必要。
- 地盤の安定性については、いずれの候補地でも課題があるが、技術的には課題解決は可能である。